

3 たんかんにおけるリュウキュウミカンサビダニ防除体系の検討

1 課題を取り上げた理由及び目的

当地域のたんかん栽培において、サビダニ類による被害が増えており、果実の外観阻害による商品性低下が課題となっている。そこで、リュウキュウミカンサビダニの発生消長調査及び防除薬剤の選定を行い、防除体系を検討する必要がある。

2 実証の概要

(1) 設置場所 徳之島町母間

(2) 耕種概要

ア 対象作物 たんかん

イ 対象品種 垂水1号

ウ 樹 齢 40年生

(3) 調査方法 1樹当たり果実30果を浸漬処理し、ろ過後に虫数を調査。調査樹は4樹。

3 調査結果

前年度にリュウキュウミカンサビダニによる被害が確認されたたんかんほ場において、4月下旬より薬剤防除を開始した。

4月下旬から発生消長調査を実施して計5回の薬剤防除を行うことで、果実浸漬調査ではリュウキュウミカンサビダニが確認されたものの、収穫時での被害果は皆無となった(図1, 表1)。

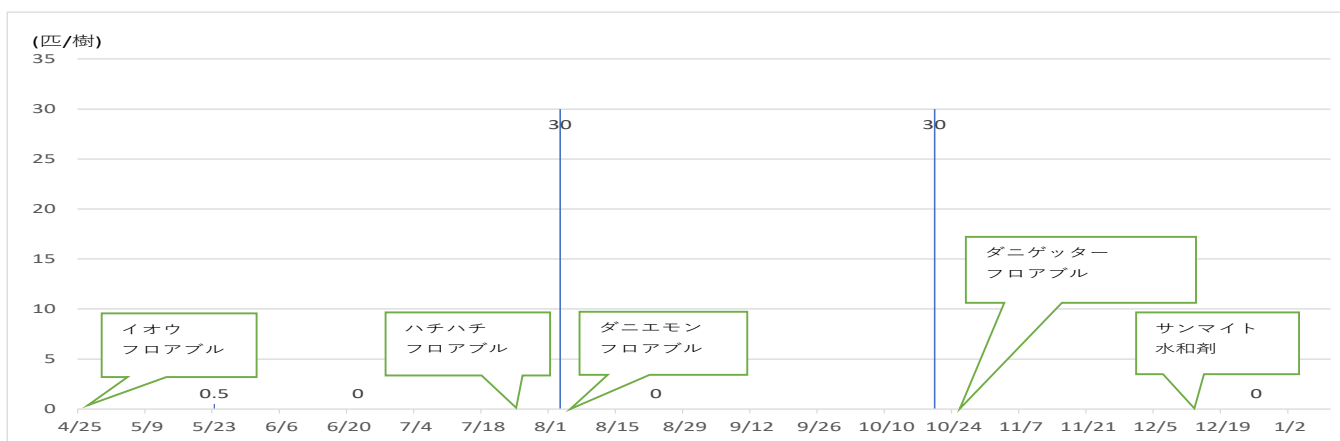


図1 リュウキュウミカンサビダニに対する薬剤防除実績および果実浸漬調査での1樹当たりの確認虫数

表1 収穫時におけるリュウキュウミカンサビダニ被害果数(令和5年2月1日調査)

収穫時の調査果実数	リュウキュウミカンサビダニによる被害果数
100個	0個

4 考察

前年度にリュウキュウミカンサビダニによる加害が確認されたほ場においては、4月中旬頃から春葉上でのリュウキュウミカンサビダニの増殖が始まると考えられる。

リュウキュウミカンサビダニによる被害について、夏季の果実肥大期にいくらか被害果が確認されたが、仕上げ摘果や樹上選果により被害果を摘果したことから、収穫時でのリュウキュウミカンサビダニの被害果は皆無となったと考えられる。

5 残された課題

秋季防除の徹底によるリュウキュウミカンサビダニの発生抑制効果の確認

6 実施者 能口 憲彦